

事業実施計画書

広島県教育委員会教育長 様

市町教育委員会名 安芸太田町教育委員会

所在地 広島県山県郡安芸太田町加計 5908-2

代表者職氏名 教育長 二見吉康

「『学びの変革』パイロット校事業」実施計画書を提出します。

1 事業の実施期間

委託を受けた日 ～ 平成30年 3月31日

2 事業内容

(1) 指定校 (パイロット校 ・ 実践指定校) ※四角い枠で囲むこと

学校名	校長名	パイロット教員若しくは研究担当教員 職・氏名
安芸太田町立加計小学校	佐々木 亮	教諭 ・ 大前美果

(2) 研究体制

① 安芸太田町「学びの変革」推進協議会

町の実情や課題を踏まえた「課題発見・解決学習」の推進及び成果の普及のための方策について、研究、検証、協議等を行う。その中で、パイロット教員が指導的役割を担い、安芸太田町の「『学びの変革』パイロット事業」の推進役として関連校と日常的に連携する。

- ・安芸太田町教育委員会学校教育課主幹
- ・パイロット校及び実践指定校の管理職、パイロット教員、研究担当教員

② 校内研究推進委員会

校長の指導のもと、校内における研究推進を研究推進計画の策定により具体化し、授業研究、評価の在り方、総合的な学習の時間の指導計画等の研究の進捗状況を把握し、具体策を検討する。

- ・校長、教頭、教務主任、研究主任、生徒指導主事
(生徒指導主事については、授業の基盤となる児童同士の信頼関係を育む観点から、研究推進を検討する役割を担う。)

(3) 研究推進上の課題

本町では、児童生徒の主体的な学びを促進するため、各教科及び道徳の時間において「協調学習」を引き起こす指導方法等に係る実践研究を行っている。今後、学力調査の結果だけでは把握できない「協調学習」の成果を評価・検証していく方法について研究し、「21世紀型能力」などこれからの時代を生きる児童生徒に必要な学力の向上を図っていくことが課題である。

そこで、町内の指定校3校での研究推進委員会と校内研究推進委員会が、まさにスクラムを組み、「協調学習」を柱に、実りある課題発見・解決学習が推進できる研究組織体制を構築していく。

(4) 児童生徒の実態

※次の事項は必ず記載すること。

- ・平成 28 年度全国学力・学習状況調査正答率
- ・平成 28 年度「基礎・基本」定着状況調査通過率
- ・平成 28 年度「基礎・基本」定着状況調査の児童生徒質問紙調査票における「学びの変革」パイロット校事業の検証に用いる質問事項 (8), (9), (13) ~ (27) の数値
 なお、パイロット校は、「学びの変革」パイロット校事業の検証に用いる質問事項の年度当初と年度末の変容が分かるように記述すること。

<ul style="list-style-type: none"> ・平成 28 年度全国学力・学習状況調査の正答率は、国語 A(71.8), 国語 B(55.5), 算数 A(75.9), 算数 B(37.8)であり、すべて、広島県平均、全国平均を下回っている。特に算数 Bは約 10% 下回っている。 ・平成 28 年度「基礎・基本」定着状況調査通過率は、国語 I (70.8), 国語 II (30.3), 算数 I (73.9), 算数 II (54.5), 理科 I (71.0), 理科 II (40.3)であり、国語タイプ II, 算数タイプ I, 理科タイプ II 以外は広島県平均を上回っている。また、県平均を超えた児童の割合は、55%である。 ・平成 28 年度「基礎・基本」定着状況調査の児童生徒質問紙調査票の肯定的回答の割合は、(8) が 54.5%, (9) が 77.3%, (13)が 86.4%, (14)が 81.8%, (15)が 50%, (16)が 68.1%, (17)が 77.3%, (18)が 86.4%, (19)が 54.6%, (20)が 59.1%, (21)が 68.2%, (22)が 68.2%, (23)が 86.4%, (24)が 95.4%, (25)が 77.3%, (26)が 81.8%, (27)が 77.3%である。 ・平成 29 年 1 月に、全学年で行った安芸太田町学力調査 (東京書籍標準学力調査) <国語, 算数, 理科, 社会>において、全国平均を超えた児童の割合は、58.7%であった。

(5) 研究テーマ

自分の考えをもち、対話の中で考えを深める児童の育成
 ~すべの活用と建設的相互作用が生まれる授業設計を通して~

(6) 研究の具体的内容

番号	項目	具体的な取組の内容		
①	研究内容	カリキュラム 開発教科	小学校 教科 (算数科), 総合的な学習の時間	
		本校では、「5つの学び方 (すべ)」を獲得・活用したり、「建設的相互作用」が生まれたりする授業設計を行うことで授業改善を進め、児童に「5つの学ぶ力」(課題発見力, 思考力, 伝え合う力, 意志力, 耐える力)を身につけさせ、自分の考えをもち、対話の中で考えを深め、学び続ける児童の育成をめざす。 また、「協調学習」の理念や知識構成型ジグソー法の手法を取り入れ、自分の考えを大事にして、一人では十分な答えが出せない課題について、みんなで考えを出し合って、より良い答えをつくり出す「主体的な学び」を進めていきたい。		
②	校内研修等の予定	月	内容	講師予定
		4月 5月	今年度の取組について 授業研究 (総合的な学習の時間)	町教委主幹 広大 朝倉教授

		6月	授業研究（「協調学習」算数科）	東大特任助教	
		7月	授業研究（「協調学習」算数科）	芸北支所指導主事	
		7月	理論研修（評価の在り方）	町教委主幹	
		8月	指導案等検討，総合的な学習の時間について	町教委主幹	
		9月	授業研究（総合的な学習の時間）	広大 朝倉教授	
		10月	授業研究（「協調学習」算数科）	芸北支所指導主事	
		11月	授業研究（総合的な学習の時間）	広大 朝倉教授	
		12月	授業研究（「協調学習」算数科）	町教委主幹	
		1月	3校合同公開研究会（算数科）	東京大学	
		2月	授業研究（「協調学習」算数科 実践指定校訪問指導）	芸北支所指導主事	
		2月	研究のまとめ	町教委主幹	
		3月	研究のまとめ	町教委主幹	
③	成果指標 *本県の指標を参考にすること	指標	達成目標	検証時期	検証方法
		タイプⅡ問題 通過率	3教科平均 県平均+5%	6月	「基礎・基本」 定着状況調査
		(13)自ら課題を 設定し解決しよう としている児童	肯定的回答 80%	6月，12月	「基礎・基本」 定着状況調査 及び学校アン ケート
		(18)情報を比較・ 分類・関係付けして 考えている児童	肯定的回答 80%	6月，12月	「基礎・基本」 定着状況調査 及び学校アン ケート
④	成果の普及活動	(25)対話を通して， 自分の考えを深めたり 広げたりしている児童	肯定的回答 80%	6月，12月	「基礎・基本」 定着状況調査 及び学校アン ケート
		(1)町内外の教職員を対象にした公開研究会を実施する。 1月 安芸太田町協調学習研究会の開催（指定校2校と合同開催） (2)校内研修（授業研究）を町内にも通知し，研究内容の普及を図る。			

3 事業実施経費

別紙3のとおり

4 事業実施担当者

所属部署	安芸太田町教育委員会 学校教育課	電話番号	0826-22-1212
ふりがな	はぎわらひでこ	FAX 番号	0826-22-1166
氏名	萩原 英子	E-Mail	gakkokyoiku@akiota.jp
職名	主幹		